

福祉サービス第三者評価結果（総括表）

① 第三者評価機関名

茨城県社会福祉協議会

② 施設・事業所情報

名称：フラワーチャイルド保育園	種別：保育所
代表者氏名：大森 靖友	定員（利用人数）： 70名
所在地：茨城県つくば市花畑1丁目9番地2	
TEL：029-864-6464	ホームページ：http://www.flower-child.jp/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 平成16年10月1日	
経営法人・設置法人（法人名等）：社会福祉法人 花畑会	
職員数	常勤職員： 18名 非常勤職員： 8名
専門職員	（専門職の名称） 名
	保育士 16名 栄養士 1名
	看護師・准看護師 2名 調理員 2名
施設・設備の概要	（居室数）保育室5、給食室、事務室、（設備等） プレイルーム

③ 理念・基本方針

【保育方針】

こども達が「幸せ」に過ごせるよう乳幼児の健全な発達を助長し、家庭的な保育を実践する。

1. 子どもの健康な心と身体を養う
2. 保育環境の充実を図る
3. 家庭の連携を密にし、特に親業としての役割を理解する。又共に育児を支えていく

- ・ あいさつができる子ども
- ・ 思いやりの気持ちを持つ子ども
- ・ 良い事、悪い事がわかる子ども
- ・ よく遊び、よく考える子ども
- ・ 自分の言葉と行いに責任を持つ子ども
- ・ 自然と生き物を大切にできる子ども

④ 施設・事業所の特徴的な取組

- ・一人ひとりの子どもたちを、しっかり見守る。安心の少人数保育。
- ・家庭的でアットホームな雰囲気を目指し、全職員が園児一人ひとり愛情をもって触れ合う。
- ・登園時の体調確認、降園時のマザーリング（今日の出来事・連絡事項）の実施。
- ・食事を通して数多くの品目を提供し、健康的な身体づくりを行う。
- ・園児が好きな遊びを見つけ、思い切り遊べられるよう保育環境の充実を図る。
- ・四季を感じ日本古来の伝統文化を大切に、行事に取り入れる。
- ・年間を通しての自然体験活動の実施（園内及び園外保育の充実）。
- ・各年齢に応じた正課教育プログラム（知育・体力）がカリキュラムに加わり、偏らない総合的な幼児教育（英語、体操、リトミック、水泳、ワーク等）を実施する。
- ・一時預かり事業や地域子育て支援（きりんカフェ）の独自事業も行っている。

⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	平成 30 年 7 月 27 日（契約日）～ 平成 31 年 月 日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2 回（平成 年度）

⑥ 総評

◇特に評価の高い点

- ・職員の就業状況等に基づく労務管理は主任・園長があたり、有給強化の取得状況や時間外労働をデータ化し、有給休暇を取りやすくしたり、超過勤務にカウントできない時間については早めの退勤を促す等の取り組みをして、業務改善を進めている。
- ・あたたかな雰囲気の中、園長自ら駐車場で登園してくる子どもや保護者と挨拶を交わしコミュニケーションを図っている。送迎時のマザーリングは些細なことでも気軽に話し合うことができ、職員と保護者の信頼関係を保ち、子どもの情報を共有する取り組みとして有効に働いている。「家庭的な保育園を目指して」職員みんなで協力し合い、チームワークの良さを感じさせ、安心して子どもを預けられる。また、「穏やかな保育」の研修を受講した職員を中心にロールプレイなどを取り入れた園内研修を実施して、穏やかな保育が行えるような取り組みをしている。
- ・自立を促す保育を目指しており、子ども一人ひとりの発達に応じて、着替えなどができるよう指導したり、3歳児以上からはそれぞれが自分の雑巾を所有し、自分の道具箱を拭いたり、プレイルームの雑巾がけをして、子どもが主体的に基本的な生活習慣を身に付けられるような取り組みをしている。
- ・食育計画の下、食に関する豊かな経験が出来るよう取り組みを行っている。給食は、手作りにこだわり、一日30品目を取れるよう献立の工夫がされている。保育園の畑で採れた野菜を調理して、季節感のある食事作りをしている。同一素材であってもメニューごとに切裁の仕方を変えたり、薄味であっても丁寧に仕込まれた一品にするなど、しっかりと調理に向き合う姿が提供されている。調理員と栄養士は、子どもと関わり、食に関する紙芝居をしたりクッキング指導も行っている。

◇改善を求められる点

- ・園のしおりやホームページ、保育計画等に明記されている理念や保育方針の文言が統一されていないので、適切に明文化し統一することを期待する。
- ・ビジョンはあるが、具体的な中・長期計画は策定されていない。財務面での裏付けを伴う「中・長期計画」の策定を期待したい。単年度の事業計画は収支計画を含まない行事計画であり、実施状況の評価は行事内容の反省に留まるものになっている。中・長期計画の具体的な内容を策定し、それを実現できるよう単年度計画に活かして行く事を期待する。
- ・保育時間が長くなった場合のおやつや軽い食事の提供を検討することを期待する。
- ・障害のある子どもの受け入れを想定した建物・設備などの環境整備に期待する。
- ・保育園内・外における虐待等権利侵害に関する防止マニュアルの作成やそれに基づく職員研修の実施に期待したい。
- ・子ども達は落ち着いてきちんと生活しているが、子ども達が伸び伸びと主体的に自主性を持って活動し、友達と関わり、遊び込めるような保育環境作りにも期待する。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

- ・今まで取り組んできた保育を様々な角度で知る事ができ、理解や率直な意見、今後の課題を明確にできた。それを踏まえ、利用者・職員・管理者が同じ保育の方向性を見据え、一步一步前に進められるよう、より良い保育園づくりに取り組んでいきたい。

〈今後の取り組み〉

- ・具体的な中長期計画の策定
- ・保育環境の充実を計画的に進める
- ・駐車スペースの無駄のない利用
- ・園庭遊びや戸外遊びのさらなる充実
- ・各クラスの一日活動状況を分かりやすく情報発信する

⑧ 評価細目の第三者評価結果（別紙）

福祉サービス第三者評価結果（個票）

対象	分類	項目	細目	評価結果	判断根拠・特記事項等
I	1	(1)	①理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	b	理念や運営方針は、保育園のパンフレットやホームページ、入園のしおりなどに明記され、明文化されている。しかし、理念や方針、目標がいろいろな言葉で散在している。創設者の一貫した思いがあることは理解できるが、職員の行動規範となり保育をより具体化していくために、また保護者により明確に理解されるためにも、理念や基本方針を統一された文言として明確にすることを期待したい。
I	2	(1)	①事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	c	地域における子どもの情報等は、地区内の「幼・保・小」や地区内住民で組織する「くすの木会」の集まりに参加することで把握しているが、各種福祉計画の策定動向や内容の適切な把握・分析をするまでには至っていない。社会福祉事業全体の動向や各種福祉計画の動向、内容などについては、自らの領域にとどまっており、視野を広げた社会情勢の把握に努めることを期待したい。
I	2	(1)	②経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	c	経営状況の把握などについては、他園と兼務する施設長が中心となって取り組みをしており、課題解決へ向けた周知を現場職員に行うまでには至っていない。経営課題への具体的な取り組みとして、職員の意見を聞き、さらに職員同士の検討の場を設定する等の組織的な取り組みに期待したい。
I	3	(1)	①中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	c	「家庭的で、選ばれていく保育園作り」というビジョンはあるが、具体的な中・長期計画は策定されていない。財務面での裏付けを伴う「中・長期計画」の策定を期待したい。
I	3	(1)	②中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	c	中・長期計画を踏まえたものにはなっておらず、単年度の目標に留まっている。単年度の事業計画は収支計画を含まない行事計画となっており、実施状況の評価は行事内容の反省に留まるものになっている。中・長期計画の具体的な内容を把握し、それを実現できるよう単年度計画に活かして行く事を期待する。
I	3	(2)	①事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが行われ、職員が理解している。	c	行事計画の策定には職員が関わり、行事の実施状況や振り返り、見直しが実施されている。今年度は七五三の企画を追加するなどしているが、職員負担の軽減についても考慮されながら改定している。行事計画の策定のみで留まることなく、事業計画の策定に職員が積極的に関わる体制作りを期待したい。
I	3	(2)	②事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	b	フラワーチャイルド保育園の事業以外の特別保育事業について、「入園のしおり」や「パンフレット」、ホームページなどで保護者に周知しているが、行事だけでない事業計画を策定し、保護者へ周知することを期待する。
I	4	(1)	①保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	c	組織的な質の向上を目指したサイクルまでには至っていない。自己評価や点検シートなどを用いて経営状況や運営状況の見直しをするなどの取り組みを期待する。2年に1度のアンケートをしていることについては評価できる。定められた評価基準を基に年1回の自己評価を実施し、継続的・組織的に保育の質の向上に取り組むことを期待したい。

福祉サービス第三者評価結果（個票）

対象	分類	項目	細目	評価結果	判断根拠・特記事項等
I	4	(1)	②評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	c	利用者アンケートを用いて自己評価としているが、課題分析や共有・改善計画までは至っていない。提供するサービスの質の向上を図り組織的・継続的な自己評価の実施と共に評価結果の分析を行い、課題を明確にした上で、改善への取り組みを計画的に実施することに期待したい。
II	1	(1)	①施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b	目指す保育を実施運営するために、園長自らの役割について職員会議等で口頭で表明している。園長の役割と職務分担については、入園のしおりの諸規定の中で文書化されている。しかし責任においては、明記されていない。不在時の権限移譲は決められてはいるが、有事における園長の役割と責任等を含め明確化していくことが望まれる。
II	1	(1)	②遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b	厳守すべき法令等を正しく理解するための取り組みとして、研修や、勉強会に参加して最新情報を入手し、職員に周知している。就任間もないため、今後も研鑽を積まれることを期待する。
II	1	(2)	①保育の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	c	話しやすい雰囲気を作るなど、現場に近い立場で寄り添う姿勢を持ち職務に当たっているが、職員意見の反映や、教育・研修のレベルは具体的な取り組みや充実を図るまでには至っていない。保育の質の現状について、定期的・継続的に評価・分析を行う体制を構築し、課題を適切に把握し、保育の質の向上に取り組まれることに期待したい。
II	1	(2)	②経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	c	複数担任制を取って超過勤務を回避したり、超過勤務にカウントできない時間については早めの退勤を促す等の処置をとる等、業務の改善を進めている。園長は、法人本部の会議等に出席し、現状を把握した上で経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、財務等の分析・現状把握に積極的に取り組まれることに期待したい。
II	2	(1)	①必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	c	11月には職員面談を実施して、次年度に向けて適切な人材の確保を目指している。中堅職員を対象にキャリアアップ研修の受講を積極的に進めている。法人としての効果的な人材確保のための方策がとられている状態とはいいがたい。保育所運営に必要な人材は確保されているが、法人の理念や基本方針の実現に向けて、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画をもって取り組まれることに期待したい。
II	2	(1)	②総合的な人事管理が行われている。	c	職員の活用や処遇についての一定の基準を職員に周知している。職員の中から園長・主任が任命され、中堅クラス職員がキャリアアップ研修に参加し、自分の将来の姿を描くことの一助になっている。現場から主任・副園長・園長と昇格してきた現園長の姿が職員にとっての将来像のモデルの一つであることは他職員の励みになっている。

福祉サービス第三者評価結果（個票）

対象	分類	項目	細目	評価結果	判断根拠・特記事項等
II	2	(2)	①職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	c	職員の就業状況等に基づく労務管理には主任・園長が当たり、有給休暇の取得状況や時間外労働をデータ化し、有給休暇を取りやすくしたり、短い時間外労働に対しては早めの退勤を促す取り組みをしている。職員の希望休暇の確保、月に2日間は保育事務の仕事が出来る時間を取り、働きやすく良好な職場環境を目指し、ワークライフバランスに配慮した職場環境づくりを心掛けている。総合的な福利厚生を実施するには至っていないが、年に数回の交流会などの企画がされ、職員還元の機会を設けている。総合的な福利厚生の実施にあたり、職員に意見を聴くなどの取り組みを期待する。
II	2	(3)	①職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	c	年の初めに各が定めた目標の設定にそった進捗状況の確認や目標達成のための助言など、職員一人ひとりの育成に向けた取り組みの充実に期待したい。
II	2	(3)	②職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	c	研修に関する情報を収集して、職員の研修参加を促している。また、自主的な研修参加についても、積極的な参加を推進している。職員の教育・研修に関する基本方針や教育研修計画が策定され、実施されるには至っていない。基本方針に明示した「期待する職員像」の実現に向けて、職員の教育・研修の計画を策定し、計画に基づいた教育・研修の実施に期待したい。
II	2	(3)	③職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	b	外部の研修や階層別、職種別、テーマ別等の研修参加を推奨している。研修の成果は、研修報告書を作成して報告している。研修報告会を開くなどして、研修成果を職員全体で共通理解し、保育内容や業務に反映されていくことを期待する。
II	2	(4)	①実習生等の保育に関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	c	基本姿勢やマニュアルなどは整っていない。週間の予定表を相談しながら作成するなどの配慮が行われているが専門職としての独自のプログラムを用意するまでには至っていない。指導者育成のための研修などへの取り組みや、実習生の保育に関わる専門職の研修、育成に関する基本姿勢を明文化し、マニュアルの整備に期待する。
II	3	(1)	①運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	c	ホームページによる事業計画や事業報告などの情報公開は行われているが、地域に向けて保育園の理念や基本方針、ビジョン等についての積極的な説明により保育園の存在意義や役割を明確にすることに期待したい。
II	3	(1)	②公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	c	社会保険労務士や税理士が、労務や会計に関するチェックを行っており、必要に応じて助言や指導を受けている。それらを活かし、経営改善に結び付けていくことを期待する。

福祉サービス第三者評価結果（個票）

対象	分類	項目	細目	評価結果	判断根拠・特記事項等
II	4	(1)	①子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	c	子どもの社会体験や、地域の中での子育て支援の基本的な考えは、運営方針保育課程に位置付けはされていないが、実践活動として、地域の老人施設訪問や地域の祭りへの参加、よさこい太鼓の地域の方々の指導を受けるなどの交流が行われている。地域との関わりについて、事業計画等で子どもが社会体験を積む具体的な取り組みとして明文化し、より一層の周辺地域との相互交流を意識された活動が行われることを期待する。
II	4	(1)	②ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	c	中学生の体験学習の受け入れや保育士候補者のボランティア受け入れなどを実施している。ボランティア受け入れに関する意義や方針を明文化、ボランティア受入れマニュアルの整備など、基本姿勢を明確にした体制作りに期待する。
II	4	(2)	①保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b	一般的な社会資源のリストを作成しているほか、公共機関や団体との連携は行われている。地域の小学校や警察署、消防署、児童相談所、保健所、病院、くすのき会、「幼・保・小」の担当者などの関係機関・団体をリスト化し定期的に連絡会に参加している。保護者には、必要に応じて関係機関や、施設の情報を提供している。
II	4	(3)	①保育所が有する機能を地域に還元している。	b	親子交流事業（親子広場）・一時預かり事業（フレンズランド）・地域子育て支援事業（きりんカフェ）などを実施して、保育所の有する機能を地域に還元している。保育所の専門性を活かし地域の保護者や子ども等の生活相談に応じている。地域の様々な機関と密接に連携を図り、地域の活性化や街づくりへより積極的に貢献されることに期待したい。
II	4	(3)	②地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	c	保育所の機能を地域に還元する事を通して地域の様々な福祉ニーズを把握するとともに、地域で定期的開催される民間保育所の会議や地域行事に参加、協力するなかで、地域の具体的な福祉ニーズも把握する機会となっている。地域との関わりの中で把握した福祉ニーズを具体的に新規事業や活動として事業計画等に明示することを期待したい。
III	1	(1)	①子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。	b	子ども一人ひとりを尊重した保育への取り組みを基本方針に明示しており、職員の服務規程や倫理綱領にも示し、園内研修等で子どもの尊重や基本的人権への配慮について職員に周知を図っている。子どもの人権に配慮し、子どもの文化の違いや、性差への先入観による固定概念などについて共通理解を持つように努めている。
III	1	(1)	②子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した保育が行われている。	c	保育者は事故防止の観点から、全体が見える空間を保持しながら、失禁やトイレトレーニング場面での配慮を行っている。必要に応じたパーテーションやカーテンの活用、コーナーの設置などの生活環境の整備としての観点から、環境的な面での配慮がされることが望ましい。子どもを尊重した保育への取り組みは基本方針等で謳っているが、子どもの人権擁護や不適切な関わりについての規程・マニュアルの整備がされていない。子どもへの安全対策マニュアルと同様に園内における虐待防止マニュアルの整備に期待したい。

福祉サービス第三者評価結果（個票）

対象	分類	項目	細目	評価結果	判断根拠・特記事項等
Ⅲ	1	(2)	①利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。	b	ホームページやパンフレットなどで園の保育への取り組みを伝えると共に、入園希望者には「入園のしおり」を作成して、園の保育方針や保育カリキュラム、年間行事予定、入園準備など必要事項を分かり易く伝えている。
Ⅲ	1	(2)	②保育の開始・変更にあたり利用者等にわかりやすく説明している。	b	保育の開始にあたっては、「入園のしおり」を基に分かりやすく説明しており、配慮が必要な保護者の場合には、慣らし保育期間をずらす等の対応を実施している。保育の変更については、メールや園内貼り紙、連絡ノートなどで随時漏れのないよう伝えている。外国籍の子に関しても意見の行き違いがないように配慮している。
Ⅲ	1	(2)	③保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	c	課題を抱えた子どもの場合などには他のネットワークに繋ぐこともある。また、ホームカミングの機会などが確保されている。今後の取り組みとして転園や卒園後の相談受付などが実施できることなどを説明する資料を作成し、配布することを期待する。
Ⅲ	1	(3)	①利用者満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b	意見箱の常設や、登降園時を利用して保護者とのコミュニケーションを図り、意見を把握するようにしている。また、2年に1度保護者アンケートを行い、分析・検討をして、具体的な改善に取り組んでいる。第2園庭の貸借を実現するなど改善に向けた具体的な動きもみられている。
Ⅲ	1	(4)	①苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b	第三者委員の設置や意見箱の設置、苦情受付担当者、苦情解決担当者を明記して苦情解決の仕組みを整えている。第三者委員の設置や苦情解決の仕組みなどを文書化し可視化する取り組みに期待したい。苦情解決の仕組みや苦情内容に関する検討内容や対応、フィードバックなどはホームページ上でのみ行われているが、解決の仕組みなどの書類の作成や掲示物での周知などに期待したい。
Ⅲ	1	(4)	②保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	b	送迎時のマザーリングで些細なことでも話し合えるようにしており、複雑な相談の場合には3階の会議室での対応が可能であり、急ぎの場合には事務室で話を聞けるようにしている。
Ⅲ	1	(4)	③保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b	苦情も含めて、マザーリングなどで伝えられた相談や意見に対しては担任や主任、園長で検討し解決に当たっているが、場合によっては第三者委員も含めた検討がされている。相談や意見に対しての記録はされているが、報告の手順、対応、検討などを定めたマニュアルの整備を期待する。また、そうした意見等にもとづき、保育の質の向上に繋がるような取り組みにも期待する。

福祉サービス第三者評価結果（個票）

対象	分類	項目	細目	評価結果	判断根拠・特記事項等
Ⅲ	1	(5)	①安心・安全な保育の提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	c	事故防止・事故対応マニュアルを策定、事故を防止するための体制を整備し、職員研修も実施している。外部からの侵入者に対する対策として、1階保育室出入口を強化ガラスにしたり、各保育室に防犯無線機や催涙スプレー、さすまた等を用意して子どもの安全を守る取り組みをしている。リスクマネジメントを目的とした委員会の設置などは行われていない。リスクマネジメントに関する規定の作成やリスクマネジメントに関する責任者の明確化が期待する。
Ⅲ	1	(5)	②感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b	看護師2名が中心になり、感染症の予防と発生時の対応マニュアルに沿って、職員に周知徹底を図り、必要に応じて勉強会も行っている。また、マニュアルの見直しや、保護者への情報提供を行っている。
Ⅲ	1	(5)	③災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的にしている。	b	災害対策マニュアルを備えて、地震や火災、竜巻やミサイル発射時等における避難訓練を毎月実施して子ども達の安全を常に確保できるようにしている。災害時にはメールで一斉配信が出来るようになっている。地震に備えては、備品の転倒防止や落下防止、消火設備を整え安全確保の為の取り組みを行っている。管理者を決めて備蓄品リストを作成している。今後は災害時の地元住民との協力体制の構築を期待したい。
Ⅲ	2	(1)	①保育について標準的な実施方法が明文化され保育が提供されている。	b	子どもの尊重やプライバシー保護については保育方針に明示しており、保育の要綱や入園のしおり等に月齢に応じて標準的な実施方法が明文化されており、職員は十分に理解している。保育実践が画一的なものにならないよう、一定の水準と、内容を保ちつつ、それぞれの子どもの個別性に対応した保育が行われることを望みます。
Ⅲ	2	(1)	②標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b	年度末、年度当初に研修をかねて標準的な実施方法の検討・見直しを行っている。それらが指導計画に反映することを期待する。
Ⅲ	2	(2)	①アセスメントにもとづく個別的な指導計画を適切に策定している。	b	保育課程に基づき、担任が指導計画を作成している。年度末及び年度初めに全職員で、検討や見直しはされているが、職員の共通理解を図るまでには至っていない。指導計画に基づく保育実践について、振り返りや、評価を行う仕組みを構築し機能することを期待します。指導計画作成時には、看護師や管理栄養士などが作成した計画書等は参考にされているが、作成会議への出席により意見や提案が直接伝えられる取り組みに期待したい。
Ⅲ	2	(2)	②定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。	b	全園児の個々の指導計画が作成され、指導上の留意点や見直等記録されている。個別の指導計画とクラスの指導計画は双方に関連性をもって作成されているが、職員がどの様に実施し、評価・見直しをして次に繋げて行くのか等の部分が薄い。実施の結果だけで終わっているため、評価反省をして保育の質の向上に繋がる様な取り組みを期待する。

福祉サービス第三者評価結果（個票）

対象	分類	項目	細目	評価結果	判断根拠・特記事項等
Ⅲ	2	(3)	①子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	b	担当を中心として朝礼や会議なども活用し、共有が図られている。子ども一人ひとりの発達状況等を踏まえた個別の指導計画に基づいて、保育の実施状況は毎日記録され、主任・園長などに周知されるような取り組みが行われている。遅番の職員には、日中の子どもの保育に関する引継ぎ事項を連絡用紙に明記して渡している。
Ⅲ	2	(3)	②子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b	子どもの記録の管理や保管、保存、廃棄等情報の提供に関する規定を定めるとともに、記録の管理について個人情報保護の観点から、職員研修等を行っている。また、保護者にも周知している。ホームページ上で保護者向けパスワードを設置するなどして写真の共有ができるようにするなどの工夫もされている。
付	1	(1)	①保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	c	保育課程は、保育所保育指針等の趣旨に基づき編成されている。特色ある保育活動として、職員・外部講師による、英語や体操、リトミック、水泳教室、サーキットトレーニング等、子どもの発達過程と活動を加味し計画策定している。現場職員の参画による編成や見直しなどを実施されることを期待する。
付	1	(2)	①生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	b	4・5歳児は混合保育、2・3歳児は室内を2分して使用している。室内の採光や換気、室温等は、子ども達が心地よく過ごせるように配慮されている。壁面等に掲示物が多く、各クラスが必要なものと、共同で見られるもの、または同じ内容のもの等はまとめるなど保育室の環境整備の工夫を期待する。園庭使用の時間をクラスごとに割り振って遊んでいる。心地よい空間や寛げる場として意図された活動や休息が行える場の設置など、生活環境の整備・配慮を期待する。
付	1	(2)	②一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	b	小規模で、家庭的な雰囲気の中で子ども達を育てたいという職員の思いが感じられ、全職員が全園児のことを把握して保育に当たっている。気になる子に対しては、月に1回の全体会議で話し合い、共通理解を図っている。子ども一人ひとりの様子や、育ちを記録して、その子に沿った対応に配慮している。子どもに対しては「穏やかな保育」を行うように、各職員が意識して保育にあたっている。
付	1	(2)	③子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a	自立を促す保育を目指しており、子ども一人ひとりの発達に応じて、子どもが着替えたいと思った時には自分で着替えられるような指導をしたり、自ら靴下を履けるような自立に向けた援助をしている。「作務」を取り入れ、3歳児以上からそれぞれが自分の雑巾を所有し、自分の道具箱を拭いたり、プレイルームの雑巾がけをして、子どもが主体的に基本的な生活習慣を身に付けるよう指導している。

福祉サービス第三者評価結果（個票）

対象	分類	項目	細目	評価結果	判断根拠・特記事項等
付	1	(2)	④子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	c	交通公園で交通ルールを学んだり、消防署の見学、お買い物体験などを通して、社会的ルールや態度を身につけていく保育に取り組んでいる。設定された環境の中での遊びが多く、子どもが自発的、自主的に生活し、のびのびと遊べる環境の工夫と、保育士の援助の仕方の工夫に期待する。屋外遊びの時間については、行事前、猛暑の後ということもあり少ない印象がある。保護者アンケートの中にも行事に係る練習と遊びの時間の確保について課題があげられていた。検討を期待する。また、表現活動を自由に行えるよう子供が主体的に使える教材・素材の提供やおもちゃなどの確保などを期待する。
付	1	(2)	⑤乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b	安全や清潔に配慮し、家庭と連携を密にしながら、子どもの生活リズムに合わせ、ゆったりと丁寧に保育している。また、スキンシップや抱っこなど子どもの欲求に応じながら、情緒の安定を図り、愛着関係が持てるように配慮している。
付	1	(2)	⑥3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	c	1、2歳児の子どもの特徴を踏まえ、一人ひとりの育ちに合わせた基本的な生活習慣が身に付くように配慮している。安全に配慮しながら環境を整え、人や物への探索活動や、自発的な遊びが充分に出来るような保育の工夫を期待する。
付	1	(2)	⑦3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	c	3歳児や4歳児の保育は遊びを中心しながらも、正課カリキュラムに体操教室、英語で遊ぼう、水泳教室などを取り入れて、養護と教育が一体的に展開されるような取り組みをしている。感じたことや思ったこと、想像したことなどを、いろいろな方法で創意工夫を凝らし、自由に表現できるような環境の設定や、伸び伸びと遊べるような自主活動の環境の工夫に期待する。
付	1	(2)	⑧障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	c	今年度はいないが、障害のある子が安心して生活できるように、関係機関と連携し、個別指導計画を立てて保育を行っている。グレーゾーンの子どもに対しては、いろいろな情報を持ち寄り、保育会議等で話し合い、全職員で関わり成長を見守る体制作りをしている。障がいのある子どもの受け入れを想定した建物・設備など障がいに応じた環境の整備を期待したい。
付	1	(2)	⑨長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	c	長時間にわたる保育の場合には、絵本の読み聞かせ等をしながら落ち着いてゆったり過ごせるような工夫をしている。保育時間が長くなった場合の水分摂取には配慮しているが、他におやつや軽い食事の提供等の検討に期待したい。
付	1	(2)	⑩小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	b	保育所保育児童要録を作成、必要に応じて小学校と情報交換を行っている。子ども達が小学校への期待が持て、見通しが立つような見学や、交流などの機会作りに期待する。

福祉サービス第三者評価結果（個票）

対象	分類	項目	細目	評価結果	判断根拠・特記事項等
付	1	(3)	①子どもの健康管理を適切に行っている。	b	看護師が保健計画を作成し、保健日誌、薬剤の管理、日々の服薬の管理、早退、病欠、けが等の対応や管理を行っている。既往症やアレルギー、予防接種等の状況は、保護者からの聞き取りを記録している。子どものけがや、体調不良、感染症等の状況を職員間で共有している。SIDSについても職員に周知して、0歳児は睡眠時に5分ごとの確認をして記録している。
付	1	(3)	②健康診断・歯科検診の結果を保育に反映している。	b	嘱託医及び嘱託歯科医により年2回の健康診断と歯科検診を実施しており、結果は保護者へ伝え家庭生活に活かされるようにしている。保育内での生活場面への反映を期待する。
付	1	(3)	③アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	c	食物アレルギーのある子どもへの対応は、医師の指示のもとで各保育室に貼り紙をして適切な対応ができるよう配慮している。特定のアレルギーの子どもについては、弁当の持参など保護者の協力をえている。他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を期待する。
付	1	(4)	①食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	b	食育計画の下、食に関する豊かな経験が出来るように取り組みを行っている。給食は、手作りにこだわり、一日30品目を取れるよう献立の工夫がされている。給食献立表は、保護者が細かく何を食べたかがわかるように、そして自然に食への関心が持てる様に工夫し、配布されている。3歳児からおやつ作りに参加して、子供の食への関心も高めている。すべて給食室で配膳して来るので、個人差や、食欲に応じての量の調整やお代わりがないので、今後の工夫に期待したい。
付	1	(4)	②子どもがおいしく安心して食べることでできる食事を提供している。	a	保育園の畑で採れた野菜を調理して、季節感のある食事作りをしている。同一素材であってもメニューごとに切裁の仕方を変える。薄味であっても丁寧に仕込まれた一品にするなど、しっかりと調理に向き合う姿が提供されている。調理員と栄養士は、子どもの食事の様子を見たり、子どもたちの話を聴いたり、時には紙芝居をしたりクッキング指導も行っている。
付	2	(1)	①子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	b	未満児の場合は連絡帳による連携を密にしており、全保護者にはマザーリングで様々な情報交換を行い、常に連携しながら子どもの生活を充実させるよう取り組んでいる。保護者の交流会を設けるなどの様々な取り組みが実施されている。
付	2	(2)	①保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	b	保護者参観や運動参観、保護者交流会、保護者面談など様々な機会を設けて、保護者の意見や希望を聞きながら共に子育てができるよう支援している。毎日の送迎時にはマザーリングでコミュニケーションを密にし、保護者からの相談には主任など経験豊富な保育士が当たり、より良い信頼関係の構築に取り組んでいる。園長や主任保育士が担任をサポートし、保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。

福祉サービス第三者評価結果（個票）

対象	分類	項目	細目	評価結果	判断根拠・特記事項等
付	2	(2)	②家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	c	毎日看護師が各クラスを回って視診を行い、気になる事は、園長・主任・担任に伝えて連携を取っている。虐待の通報の手順等は各クラスの壁面には貼られているが、マニュアルが整備されていないので、虐待マニュアルの作成と、それに基づいた関係機関との連携、及び職員研修等の体制作りを期待する。
付	3	(1)	①保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	c	年2回各保育士等は自己評価を実施して、保育実践の振り返りを行っている。保育士等の自己評価を個人の保育の改善や専門性の向上に役立てると同時に保育園全体の保育実践の向上につなげることに期待したい。